

銀漢亭日録



伊藤伊那男

1月9日(木)▼エッセイなど。店、十六夜、極合同句会。十七名ほど。
11日(金)▼「大倉句会」あと二十三人。活気あり。
12日(土)▼十時、運営委員会。十三時、「文京シビックホール」にて「銀漢本部句会」。折原あきの人に黙禪。句会あと、「こん」にやく闇魔、源覚寺」横の中華料理店にて親睦会。
13日(日)▼通信、札状など七、八枚。エッセイ一本。夜、近所の友人親子来るといいうので料理引き受けて貰い物。莉子はスキイ合宿。宮澤と龍正もスキイで不在。十八時半バス、食事。舞茸の柚子風味みぞれ和え。からすみ。チーズ、生ハム……。ステーク、ガーリックライスなど。
14日(月)▼休日。十四時、浅草「三浦屋」に盤水先生のご長男丈人氏、甥の文弘氏、当方、禪次、井蛙さん集合。恒例の新年会。河豚。あと「水口食堂」、「神谷バー」と歩く。帰宅すると喉変調。薬飲んで早々に就寝。
15日(火)▼不調。店、「火の会」十二人。湯豆腐など。吉田千嘉子さん(八戸「たかな」主宰)ゲスト。檜山哲彦さん(「りいの」主宰)入会。「伊吹嶺」の方々来店など。
16日(水)▼「三水会」八人。忠さん、種谷さん。「宙句会」あと十人。風邪まだだ。
17日(木)▼「角川俳句大歳時記」の改訂版、執筆部分の確認。直し返送。「春耕新年俳句大会」の選句。応募六百超あり。選評付けて送る。店「銀漢句会」あと十七人。風邪まだ駄目。
18日(金)▼店、十九時半で閉め、近所で小酌。
19日(土)▼十四時、日本橋「鰯の与志喜」にて「鰯句会」。大将、年末で引退、若手と変わる。雲子の味噌蒸、鰯の蕪蒸、公魚のフライ。酒は「日、高見」。握り。あと、三鷹からバスに乗り、太田うさぎさん宅で恒例の新年会。昼過ぎから集まっております、十数名。持参したうどん鍋セットを煮て出す。二十二時前、辞去。風邪まだだ。
20日(日)▼終日家。風邪で集中力無く、寝たり、テレビを見たり、とりとめもなく……。酒抜く。

2月1日(土)▼快晴。富士山美しい。十時、運営委員会。十周年記念事業のことなど。午後、「銀漢本部句会」五十九人。あと「上海庭」にて十人程、親睦会。
2日(日)▼「桃子と華子は韓国へ」。莉子はスキイ合宿。三月号の選句遅れており、終日家。
3日(月)▼角川「俳句」立木編集長と高橋さん。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと九人。二十二時半に閉めて、帰宅。二十四時の時報と共に一陽来復のおれを恵方に貼る。宮澤に頼まれていたもの。
4日(火)▼麻里伊、中村十郎、忠さん来店。客さなくいろいろと話。
5日(水)▼十五時半、井月顕彰会北村監督、井ノ口、平沢、井蛙さん集合。「井月忌俳句大会」の打ち合わせ。「きさらぎ句会」あと五人。「宙句会」あと九人。帰路、神保町駅で本阿弥書店の奥田洋子社長とばったり会い、少し話。
6日(木)▼店、「十六夜句会」あと九人。山田真砂年、山崎祐子さん。中島俊雲君上京。
7日(金)▼「大倉句会百回記念句会」を店で。三十人程。清人さん、鮎、まんぼうの刺身など。皆さん酒沢山……持参。
8日(土)▼「春耕新年俳句大会」高橋不動尊。盤水先生の墓参。二部、懇親会で乾杯の発声。終了後、「天狗」にて二次会。あと九人でカラオケ歌う。あと仙川駅で降りて昨年寄った居酒屋でまた……。
9日(日)▼十時、青山の梅窓院。宮澤の父上三回忌法要。山梨の母堂お元氣。日暮の富士山を成城駅から見。莊厳。久々、家族揃っての夕食。鰻、牡蠣、鰻、雲子の鍋。今日は二日酔いを引きずって禁酒デイ。
10日(月)▼「火の会」。上京中の「たかな」主宰吉田千嘉子さん参加。八戸の千魚沢山送って下さる。十四人の会となる。
11日(火)▼建国記念日。五時起床。七時半の「レッドアロー号」で秩父。乗り継いで皆野町の金子医院(壺春堂)。兜太先生の子息眞土さん、甥の桃刀さんが待っていて下さり、兜太先生を見学する。鯉屋の「吉見屋」さんに上り、ご主人から兜太、秋桜子、伊昔紅他の逸話を聞く。樟神社、「秩父味噌やマブ」を

21日(月)▼事業部、新年俳句大会の打ち合わせなど。
22日(火)▼妻の命日。伊集院静先生よりお線香届く。「問句会」八人。
23日(水)▼閑散。事業部、新年会の準備。洋酔、宇志さん、ギタ―持参。曲の練習など。
24日(木)▼伊集院静先生、くも膜下出血で入院と！超閑散。二十時半閉める。
25日(金)▼「金星句会」あと六人。堀切克洋くん、明日パリに帰ると。
26日(土)▼「錦華」にて「銀漢俳句会年次総会・新年俳句大会」。十四時半まで式典。あと、新年会。皆川丈人氏、文弘氏を迎える。百五人。恒例の寸劇で私はラン三世の役。実は見たことも無く、訳もわからないのだが、ともかく、化粧をしてもらい登場。何だか盛り上がる。他にも様々な余興があり、楽しいひととき。あと「銀漢亭」を開放。四十人ほどが集まり二十時半まで大騒ぎ。
27日(日)▼「俳壇」四月号の巻頭エッセイ「春の味覚」について書く。四千八百字はなかなかの量。午後、兄、義妹を招いて妻を偲ぶ会。かれこれ十五年。河豚鍋、河豚刺を取り寄せ。からすみ供す。そのあと近所の中川さん一家来て談話。中川さんは奈良出身。今、生駒にゲストハウス建設中。
28日(月)▼角川新年会のこと、角川賞受賞の西村麒麟君の受賞祝賀会。西村夫妻を囲み五十人超が集まる。岸本尚毅、四ツ谷龍、高橋陸郎、小島健、屋内修、錦田智哉、角川の立木編集長、武藤紀子、今井肖子、鳥居真里子さん……。
29日(火)▼「萩句会」あと十六時から店に十七人。新谷房子さんの「信濃賛歌」出版を祝う会。武田花果さんの「銀漢賞」受賞、辻隆夫さんの佳作の祝い。オリックス時代の部下四人。「ひまわり句会」あと五人など。
30日(水)▼「雛句会」十五人。カウスターも盛況。
31日(木)▼麦、羽衣衣、近江文代さん上野で遊んできた。気仙沼の小野寺一砂、清人さん兄弟来店。「ヴーヴクリコ」で乾杯。

1日(金)▼「大倉句会」あと二十三人。活気あり。
2日(土)▼十時、運営委員会。十三時、「文京シビックホール」にて「銀漢本部句会」。折原あきの人に黙禪。句会あと、「こん」にやく闇魔、源覚寺」横の中華料理店にて親睦会。
3日(日)▼通信、札状など七、八枚。エッセイ一本。夜、近所の友人親子来るといいうので料理引き受けて貰い物。莉子はスキイ合宿。宮澤と龍正もスキイで不在。十八時半バス、食事。舞茸の柚子風味みぞれ和え。からすみ。チーズ、生ハム……。ステーク、ガーリックライスなど。
4日(月)▼休日。十四時、浅草「三浦屋」に盤水先生のご長男丈人氏、甥の文弘氏、当方、禪次、井蛙さん集合。恒例の新年会。河豚。あと「水口食堂」、「神谷バー」と歩く。帰宅すると喉変調。薬飲んで早々に就寝。
5日(火)▼不調。店、「火の会」十二人。湯豆腐など。吉田千嘉子さん(八戸「たかな」主宰)ゲスト。檜山哲彦さん(「りいの」主宰)入会。「伊吹嶺」の方々来店など。
6日(水)▼「三水会」八人。忠さん、種谷さん。「宙句会」あと十人。風邪まだだ。
7日(木)▼「角川俳句大歳時記」の改訂版、執筆部分の確認。直し返送。「春耕新年俳句大会」の選句。応募六百超あり。選評付けて送る。店「銀漢句会」あと十七人。風邪まだ駄目。
8日(金)▼店、十九時半で閉め、近所で小酌。
9日(土)▼十四時、日本橋「鰯の与志喜」にて「鰯句会」。大将、年末で引退、若手と変わる。雲子の味噌蒸、鰯の蕪蒸、公魚のフライ。酒は「日、高見」。握り。あと、三鷹からバスに乗り、太田うさぎさん宅で恒例の新年会。昼過ぎから集まっております、十数名。持参したうどん鍋セットを煮て出す。二十二時前、辞去。風邪まだだ。
10日(日)▼終日家。風邪で集中力無く、寝たり、テレビを見たり、とりとめもなく……。酒抜く。
11日(月)▼事業部、新年俳句大会の打ち合わせなど。
12日(火)▼妻の命日。伊集院静先生よりお線香届く。「問句会」八人。
13日(水)▼閑散。事業部、新年会の準備。洋酔、宇志さん、ギタ―持参。曲の練習など。
14日(木)▼伊集院静先生、くも膜下出血で入院と！超閑散。二十時半閉める。
15日(金)▼「金星句会」あと六人。堀切克洋くん、明日パリに帰ると。
16日(土)▼「錦華」にて「銀漢俳句会年次総会・新年俳句大会」。十四時半まで式典。あと、新年会。皆川丈人氏、文弘氏を迎える。百五人。恒例の寸劇で私はラン三世の役。実は見たことも無く、訳もわからないのだが、ともかく、化粧をしてもらい登場。何だか盛り上がる。他にも様々な余興があり、楽しいひととき。あと「銀漢亭」を開放。四十人ほどが集まり二十時半まで大騒ぎ。
17日(日)▼「俳壇」四月号の巻頭エッセイ「春の味覚」について書く。四千八百字はなかなかの量。午後、兄、義妹を招いて妻を偲ぶ会。かれこれ十五年。河豚鍋、河豚刺を取り寄せ。からすみ供す。そのあと近所の中川さん一家来て談話。中川さんは奈良出身。今、生駒にゲストハウス建設中。
18日(月)▼角川新年会のこと、角川賞受賞の西村麒麟君の受賞祝賀会。西村夫妻を囲み五十人超が集まる。岸本尚毅、四ツ谷龍、高橋陸郎、小島健、屋内修、錦田智哉、角川の立木編集長、武藤紀子、今井肖子、鳥居真里子さん……。
19日(火)▼「萩句会」あと十六時から店に十七人。新谷房子さんの「信濃賛歌」出版を祝う会。武田花果さんの「銀漢賞」受賞、辻隆夫さんの佳作の祝い。オリックス時代の部下四人。「ひまわり句会」あと五人など。
20日(水)▼「雛句会」十五人。カウスターも盛況。
21日(木)▼麦、羽衣衣、近江文代さん上野で遊んできた。気仙沼の小野寺一砂、清人さん兄弟来店。「ヴーヴクリコ」で乾杯。
22日(金)▼「大倉句会」あと二十三人。活気あり。
23日(土)▼十時、運営委員会。十三時、「文京シビックホール」にて「銀漢本部句会」。折原あきの人に黙禪。句会あと、「こん」にやく闇魔、源覚寺」横の中華料理店にて親睦会。
24日(日)▼通信、札状など七、八枚。エッセイ一本。夜、近所の友人親子来るといいうので料理引き受けて貰い物。莉子はスキイ合宿。宮澤と龍正もスキイで不在。十八時半バス、食事。舞茸の柚子風味みぞれ和え。からすみ。チーズ、生ハム……。ステーク、ガーリックライスなど。
25日(月)▼休日。十四時、浅草「三浦屋」に盤水先生のご長男丈人氏、甥の文弘氏、当方、禪次、井蛙さん集合。恒例の新年会。河豚。あと「水口食堂」、「神谷バー」と歩く。帰宅すると喉変調。薬飲んで早々に就寝。
26日(火)▼不調。店、「火の会」十二人。湯豆腐など。吉田千嘉子さん(八戸「たかな」主宰)ゲスト。檜山哲彦さん(「りいの」主宰)入会。「伊吹嶺」の方々来店など。
27日(水)▼「三水会」八人。忠さん、種谷さん。「宙句会」あと十人。風邪まだだ。
28日(木)▼「角川俳句大歳時記」の改訂版、執筆部分の確認。直し返送。「春耕新年俳句大会」の選句。応募六百超あり。選評付けて送る。店「銀漢句会」あと十七人。風邪まだ駄目。
29日(金)▼店、十九時半で閉め、近所で小酌。
30日(土)▼十四時、日本橋「鰯の与志喜」にて「鰯句会」。大将、年末で引退、若手と変わる。雲子の味噌蒸、鰯の蕪蒸、公魚のフライ。酒は「日、高見」。握り。あと、三鷹からバスに乗り、太田うさぎさん宅で恒例の新年会。昼過ぎから集まっております、十数名。持参したうどん鍋セットを煮て出す。二十二時前、辞去。風邪まだだ。
31日(日)▼終日家。風邪で集中力無く、寝たり、テレビを見たり、とりとめもなく……。酒抜く。